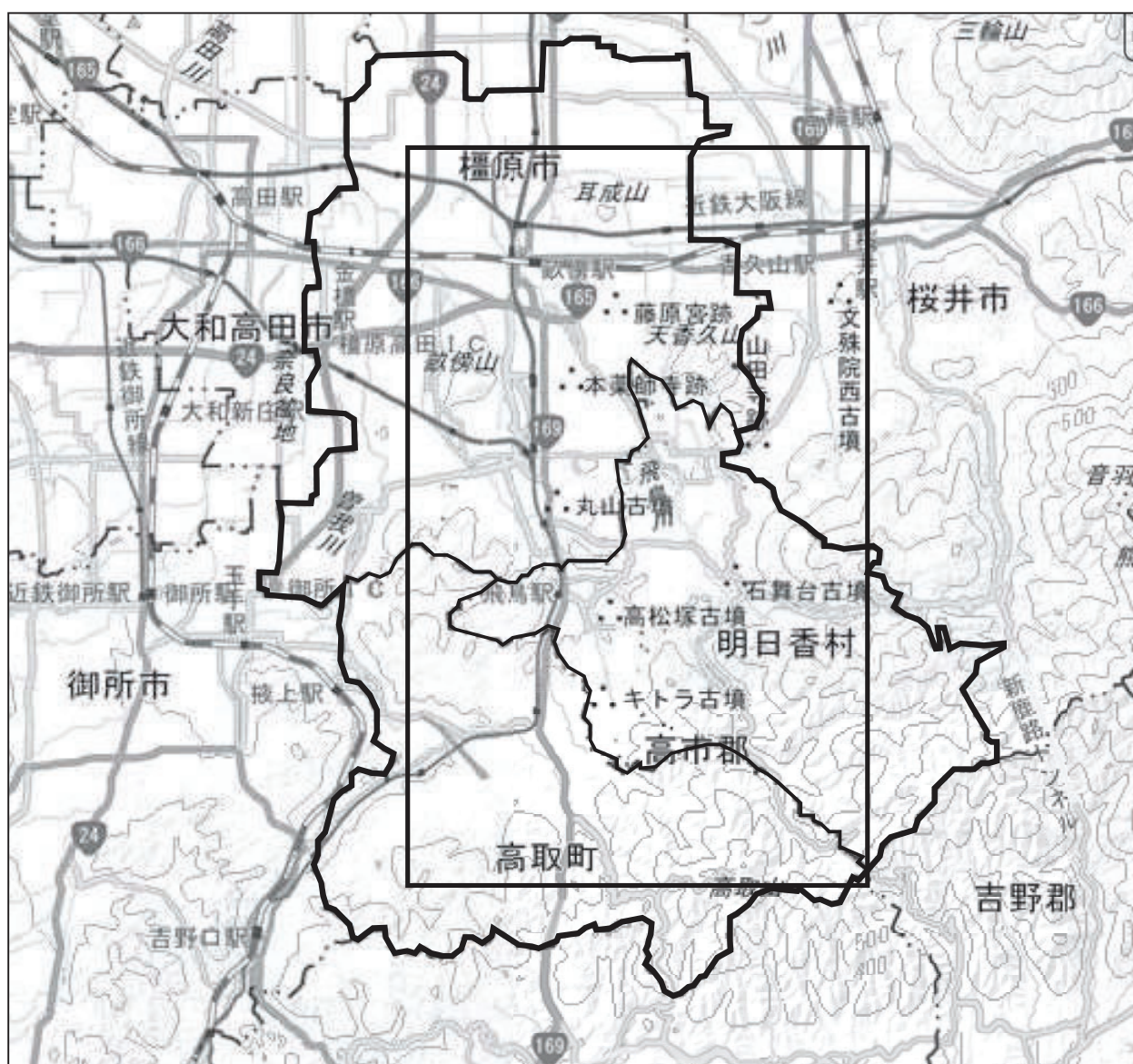


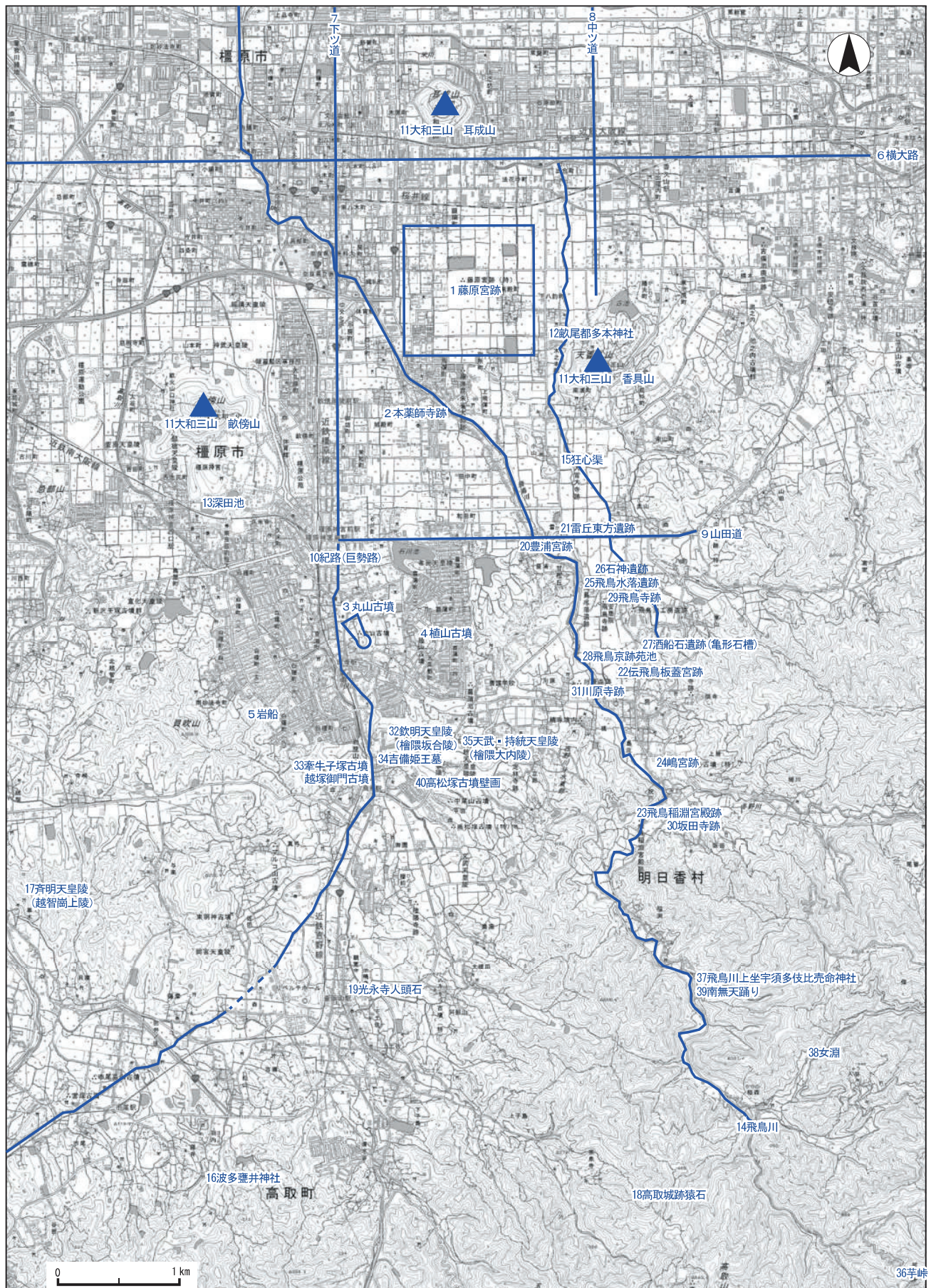
① 申請者	橿原市・高取町・ ◎明日香村	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
「日本国創成のとき ～飛鳥を翔（かけ）た女性たち～」			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
日本が「国家」として歩み始めた飛鳥時代。この日本の黎明期を牽引したのは女性であった。 この時代の天皇の半数は女帝であり、彼女たちの手によって、新たな都の造営、外交、大宝律令を始めとする法制度の整備が実現された。また、文化面では、女流歌人が感性豊かな和歌を高らかに詠い上げ、宗教面では、尼僧が仏教の教えを広め、発展させるなど、政治・文化・宗教の各方面で女性が我が国の新しい“かたち”を産み出し、成熟させていった。 日本国創成の地である飛鳥は、日本史上、女性が最も力強く活躍した場所であり、その痕跡が色濃く残る地である。			
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名	明日香村教育委員会文化財課		
電 話	0744-54-5600	FAX	0744-54-5602
E-mail	bunkazai@tobutori-asuka.jp		
住 所	〒634-0141 奈良県高市郡明日香村大字川原91-3 明日香村教育委員会 文化財課		

橿原市、高取町、明日香村の位置図



構成文化財の位置図

(様式1-2)



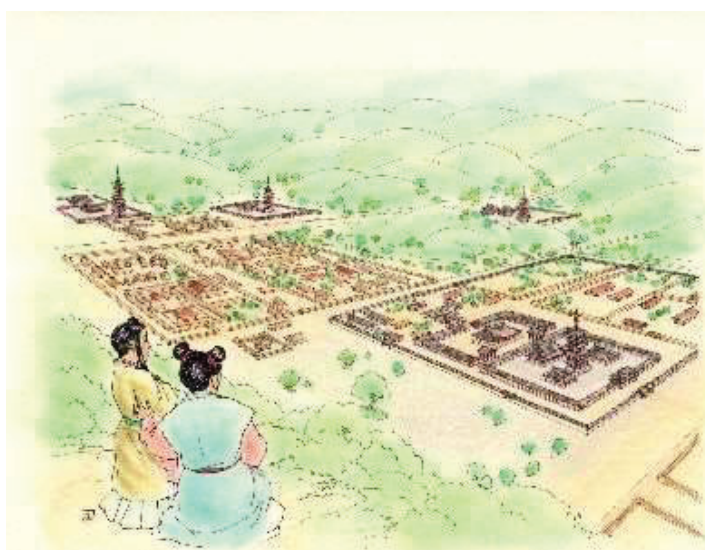
ストーリー

古代飛鳥は女性を受容した新進の時代であったと言っても過言ではない。複数の女帝が誕生し、豊かな感性で、政治にかかわったのも古代飛鳥であり、宗教や文学においても女性たちの活躍を抜きにしては語れない。なぜ国が誕生する時に、女性の存在が大きくなるのであろうか？なぜ、古代において女性がこのように力強く活躍したのであろうか？その答えは、「飛鳥」にある。

女性が国づくりの原動力

日本で初めての女帝であった推古天皇は、巫女（シャーマン）的要素を備えつつも、仏教の興隆に力を注いだ。従来どおり神々が宿る自然を厚く敬いながらも、新しい仏教を取り込み、いわば神仏が調和した国づくりをはじめた。そして、東アジア世界と正面から向き合った女性でもある。このような女性の力は、次の女帝・皇極（斉明）天皇にも受け継がれている。八十万の神々が坐す霧囲気が残る奥飛鳥には、女帝が雨乞いをしたという伝承が残り、自然と一体となってその能力を発揮した。斉明天皇として再度即位した頃からは、飛鳥の大開発を牽引していくようになり、その記憶は多くの遺跡や景観として現代にも伝わっている。その思想的背景には、仏教と共に神仙思想が融合したものであり、女帝の圧倒的な意思と指導力がここに垣間見える。激動の時代を経験したことが、女帝の心に大きく響いたのであろう。そして、この国づくりを完成させたのが、持統天皇と夫の天武天皇であった。持統女帝は、夫・天武の国づくりの意思を継いで、「藤原京」を完成させ、大宝律令を制定させた。ここに「日本国」を誕生させたのである。

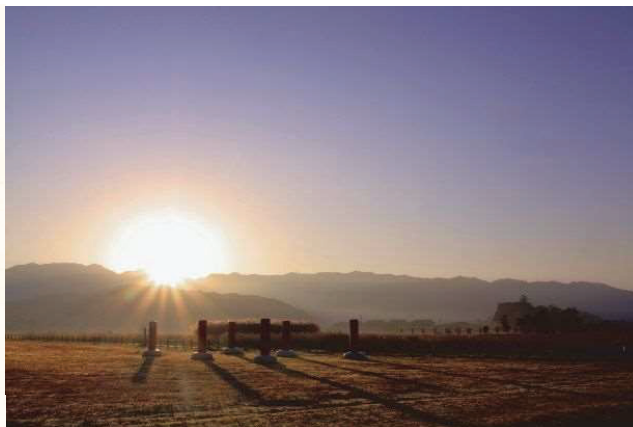
このように、女性が本来持つ神仏と共感する巫女的な要素と、内に秘めた強い力が、国づくりの原動力となった。



女性が輝く仏教興隆と万葉の歌

女性の活躍は、政治だけでなく、宗教や文化の面でもみられる。仏教興隆の先駆者となった我が国最初の僧は、驚くべきことに11才で出家した善信尼と呼ばれる女性であった。彼女は戒律の法を学ぶために百済に渡り、帰国後には、多くの女性を尼僧として得度させた。このことも、古代の女性に巫女的な要素が多く備わっていたことと無関係ではないだろう。

また、『万葉集』には、持統天皇や額田王など、多くの女性歌人たちの歌が載せられている。たとえば古代の中国では、女性の立場になって男性が詩歌を詠むことはあっても、日本のように女性が実質的な文化の担い手とはなり得ていなかった。女性が実際に詩歌を詠み、それが残されていることから、古代日本は女性の時代であったといえるだろう。そこからは、古代の女性たちの生き生きとした声が聞こえてくるようである。



新しい国の“かたち”

このように、飛鳥の女性を語ることから、日本が「国家」として歩み始め、東アジアを通じた世界観が見えてくる。飛鳥時代を牽引したのは女性であった。彼女たちの手によって、政治・宗教・文化の各方面で、我が国の新しい“かたち”が産み出されていった。「日本国」誕生に関わった女性の活躍をみると、世界の中でのこれからの新しい国の“かたち”に、女性の“ちから”が注目される。



(持統天皇 吉野行幸の再現)

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	ふじわらきゅうせき 藤原宮跡	国特史	天武天皇と女帝持統天皇合作の都城藤原京の中心をなす宮殿跡。天武が律令国家の確立を目指し建設を始め、持統がその遺志を受け継ぎ完成させた都は、壮大な国家形成の物語を象徴する歴史遺産である。	橿原市
2	もとやくしじあと 本薬師寺跡	国特史	天武天皇と女帝持統天皇の夫婦合作の寺院跡。皇后（後の持統天皇）の病氣治癒を願って創建を始めた夫の深い愛情と、夫の遺志を受け継ぎ寺院を完成させた妻持統の決意や夫婦愛、絆の強さを感じ取れる。	橿原市
3	まるやま 丸山古墳	国史跡	被葬者の候補として推古天皇が父、欽明天皇の眠る陵墓へ母、堅塩媛 ^{きたしひめ} を追葬した古墳と考えられている。飛鳥時代を切開いた女帝の母への愛情が偲ばれる。	橿原市
4	うねやま 植山古墳	国史跡	推古天皇が、若くして世を去った最愛の息子・竹田皇子との合葬を願って追葬された古墳。飛鳥時代を強く牽引した女帝の、母としての愛情と疲弊する民を気遣う慈悲の深さがうかがえる。	橿原市
5	いわふね 岩船	県史跡	横口式石槨 ^{よこぐちしきせつかく} の未完成品や占星台ともされる謎の巨大な石造物。近くの牽牛子塚古墳の石槨と類似した形態から斉明女帝のために作製を始めたと思われることもできる。	橿原市
6	よこおおじ 横大路	未指定	推古女帝が造った飛鳥の都から難波を繋ぐ ^{おほおち} 大道である。横大路の開通により大陸との外交窓口であった難波から飛鳥の都にかけて外国使節の往来が活発となり、数多くの先進の文物や情報が将来され、推古女帝の国づくりの大きな原動力となった。	橿原市

7	しも みち 下ツ道	未指定	大和盆地を縦断する直線道路で、その南は巨勢路・紀路へと繋がる。天武・持統合作の都藤原京の建設途上、持統女帝が「藤原京の大路を見に足を運ばれた」と記す道の最有力候補でもある。	橿原市
8	なか みち 中ツ道	未指定	大和盆地を縦断する直線道路で、壬申の乱の広域にわたる戦闘推移を語る南北道路。来る壬申の乱に備え、大海人皇子とともに妃である後の持統女帝が、大津宮から吉野に移った時の経由地となった飛鳥の嶋宮には中ツ道を通して入られたとみられている。	橿原市
9	やまだ みち 山田道	未指定	飛鳥地域の主要な古代官道。推古女帝の外交政策の一環として、遣わされた遣隋使と共に来日した裴世清らが、女帝の宮殿まで通った道。	橿原市 明日香村
10	き じ (こ せ じ) 紀路 (巨勢路)	未指定	下ツ道の南への延長で、紀伊国へと続く古代幹道。真弓丘陵の東辺を南西行し、この沿線上に古墳や寺院・瓦窯跡が見つっている。斉明・持統女帝はこの道を通り牟呂の湯へと訪れた。	橿原市 高取町 明日香村
11	やまとさんざん 大和三山	国名勝	わが国最古の歌集『万葉集』で多くの歌の題材となった山。特に、額田王を巡る想いを三山に喩えた歌は著名であり、飛鳥時代のリーダー達が詠んだ歌に込められた心模様や活躍した舞台をイメージさせるシンボリック的存在である。	橿原市
12	うね お つ たもとじんじや 畝尾都多本神社	未指定	祭神の ^{なきさわめのかみ} 哭沢女神は延命の神とされ、藤原京の時代に政治を牽引した高市皇子の妃、 ^{ひのくまのじよおう} 檜隈女王が夫の延命を願った伝承がある。夫を支える女性達の厚い信仰心を実感できる古社である。	橿原市
13	ふかだ いけ 深田池	未指定	推古女帝が大和に造った7つの池の一つで、 ^{うねび} 畝傍池の有力候補地。現存する深田池の広大な水面からは、国土の開発に力を注ぎ、新たな時代を切開いた女帝の偉業が感じられる。	橿原市

1 4	あすかがわ 飛鳥川	未指定	万葉歌の中でも飛鳥川を詠んだものは多い。この川の流れに、男女の思いを託した歌も詠み込まれており、女性の二人の想いを読み込んでいる。	橿原市 明日香村
1 5	たがれごごろのみぞ 狂心渠	未指定	斉明女帝が宮の東山に石垣を築くために石材を運んだ運河。女帝が民の声に反してまで行った大土木工事。	橿原市 明日香村
1 6	はたみかいじんじや 波多甕井神社	未指定	羽田は、推古女帝が百官を従え、薬狩りを行った地である。男性は鹿を狩り、女性は薬草を摘む薬狩りは端午の節句の起源とも言われている。波多甕井神社周辺の羽内遺跡では、大型の掘立柱建物が検出され、推古女帝の薬狩りとの関連が指摘されている。	高取町
1 7	さいめいてんのうりよう 斉明天皇陵 おちのおかのえのみさきぎ (越智岡上 陵)	陵 墓	斉明天皇と間人皇女の墓、大田皇女の墓。母と娘がひとつの古墳に合葬され、さらに孫娘の墓を陵前に造るなど、三代つづけての親子愛にあふれている。	高取町
1 8	たかとりじょうあとさるいし 高取城跡猿石	町指定	高取城跡にある飛鳥時代の石造物。斉明女帝が、古代のおもてなしの場の盛り上げ役として造ったオブジェ。	高取町
1 9	こうえいじんとうせき 光永寺人頭石	未指定	高取土佐街道の光永寺にある飛鳥時代の石造物。斉明女帝が、古代のおもてなしの場の盛り上げ役として造ったオブジェ。	高取町
2 0	とゆらのみやあと 豊浦宮跡	県史跡	豊浦寺跡の下層にある推古女帝の最初の宮殿。我が国はじめての女帝がここで誕生し、ここから飛鳥時代がはじまった。	明日香村
2 1	いかづちのおかうほういせき 雷丘東方遺跡	未指定	推古女帝の宮殿。遣隋使の報告を受けて、東アジア世界を意識して作られた本格的な宮殿。この宮殿において様々な政策を実践した。	明日香村
2 2	でんあすかいたがきのみやあと 伝飛鳥板蓋宮跡	国史跡	皇極女帝の宮殿で、その後斉明・持統女帝も同じ地に宮殿を建てた。乙巳の変などの事件がおこり、様々な政策が実施されるなど、「日本国」の形成に邁進した場所。	明日香村

2 3	あすかいなづちきゅうでんあと 飛鳥稻淵宮 殿跡	国史跡	難波から飛鳥へ還都した時の宮殿 あすかのかわべのかりのみや 「飛鳥川辺行宮」と考えられている。 皇極女帝らが一時的に利用した宮殿 で、飛鳥川の近くに建てられた。	明日香村
2 4	しまのみやあと 嶋宮跡	未指定	壬申の乱のおり、ここで天武と持統女 帝が過ごした思い出の場所であり、そ れは子供の草壁皇子に引き継がれた。	明日香村
2 5	あすかみずおちいせき 飛鳥水落遺跡	国史跡	斉明女帝が我が国で初めて造った ろうこく。今に繋がる時間を管理すること によって、斉明女帝は人々を支配し、 政治体制を充実させた。	明日香村
2 6	いしがみいせき 石神遺跡	未指定	飛鳥の迎賓館。斉明・持統女帝が、蝦 夷や隼人らに対する服属儀礼を須弥 山のもとで行うことによって、ここを 世界の中心とした。	明日香村
2 7	さかふないしいせき かめがたせきそう 酒船石遺跡 (亀形石槽)	国史跡	女帝が自ら実践した天皇祭祀の遺跡。 ここで、斉明女帝が様々な祭祀を執行 することによって、まつりごと「政」を行った。	明日香村
2 8	あすかきょうあとえんち 飛鳥京跡苑池	史跡・名勝	飛鳥宮に付属する庭園。斉明女帝が宮 殿に隣接して造り、東アジアの思想の 影響を受けて、もてなしの空間を造作 した。	明日香村
2 9	あすかでらあと 飛鳥寺跡	国史跡	我が国ではじめての本格的な古代寺 院。善信尼が興隆に努力した仏教を、 古代寺院としてはじめて開花させた。	明日香村
3 0	さかたでらあと 坂田寺跡	未指定	善信尼の父である司馬達等が建立し た初期寺院。善信尼の仏教への帰依は 父の強い思いをつなぐもので、坂田寺 はその象徴的な尼寺でもあった。	明日香村
3 1	かわらでらあと 川原寺跡	国史跡	斉明女帝の川原宮の跡地に、息子の中 大兄皇子が建立した寺院。亡き母のた めに、息子が創建するなど、親子愛の 絆の強さを感じさせる。	明日香村
3 2	きんめいてんのうりよう 欽明天皇 陵 ひのくまのさかあいのみささぎ (檜隈坂合 陵)	陵 墓	仏教公伝時の欽明天皇の御陵。被葬者 の候補として推古天皇が父、欽明天皇 の眠る陵墓へ母、堅塩媛を追葬した古 墳と考えられている。飛鳥時代を切り 開いた女帝の母への愛情が偲ばれる。	明日香村

33	けんごしづか 牽牛子塚古墳・越塚御門 古墳	国史跡	斉明天皇と間人皇女の墓、大田皇女の墓。斉明女帝の御陵で八角形である。母と娘がひとつの古墳に合葬され、さらに孫娘の墓を陵前に造るなど、三代つづけての親子愛にあふれている。	明日香村
34	きびひめおうのほか 吉備姫王墓	陵墓	欽明天皇陵に隣接する墓。皇極女帝の母である吉備姫王の墓とされている。墓域内には、付近から出土した猿石が4体安置されており、斉明女帝か造らせた石造物とされている。	明日香村
35	てんむじとうてんのうりょう 天武・持統天皇陵 (檜隈大内陵)	陵墓	天武天皇と持統天皇の合葬陵。夫の天武と共に壬申の乱を乗り越え、国造りに励んだ夫婦が、同じ御陵に埋葬されている。夫婦の強い絆を感じられる。	明日香村
36	いもとうげ 芋峠	未指定	飛鳥と吉野を結ぶ古道。壬申の乱直前の吉野行幸で、夫婦の絆を強くした。持統女帝は在位中、夫の面影を求めて芋峠を超えて何度も吉野へ訪れた。	明日香村 高取町
37	あすかかわかみにいます 飛鳥川上坐 宇須多伎比売命神社	重文景	飛鳥川上流域にある神社。宇須多伎比売命と応神天皇・神宮皇后を祀る。皇極女帝が雨乞いをしたと伝えられる地に立ち、南無天踊りを今に伝える。	明日香村
38	めぶち 女淵	重文景	飛鳥川源流域に位置し、女神が棲んでいるとされる場所。皇極女帝が雨乞いをした「南淵の河上」の場所とも伝えられている。	明日香村
39	なもておど 南無天踊り	未指定	雨乞い神事。皇極天皇の雨乞いにはじまったものを神事として現在まで受け継がれている。また、飛鳥川上坐宇須多伎比売命神社にあった南無天踊りの絵馬も残されている。	明日香村
40	たかまつづかこふんへきが 高松塚古墳壁画	国宝	飛鳥美人に代表される極彩色の人物壁画が描かれており、当時の采女の姿など、具体的に復原できると共に、万葉の世界を彷彿させる資料である。	明日香村

- (※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。
- (※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文、県有形、市無形、等）。
- (※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。
- (※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧①

1 藤原宮跡



4 植山古墳



2 本薬師寺跡



5 岩船



3 丸山古墳



6 横大路



構成文化財の写真一覧②

7 下ツ道



10 紀路 (巨勢路)



8 中ツ道



11 大和三山



9 山田道



12 畝尾都多本神社



構成文化財の写真一覧③

13 深田池



16 波多甕井神社



14 飛鳥川



17 斉明天皇陵（越智崗上陵）



15 狂心渠



18 高取城跡猿石



構成文化財の写真一覧④

19 光永寺人頭石



22 伝飛鳥板蓋宮跡



20 豊浦宮跡



23 飛鳥稻淵宮殿跡



21 雷丘東方遺跡（出土土器）



24 嶋宮跡



構成文化財の写真一覧⑤

25 飛鳥水落遺跡



28 飛鳥京跡苑池



26 石神遺跡



29 飛鳥寺跡



27 酒船石遺跡（亀形石槽）



30 坂田寺跡



構成文化財の写真⑥

31 川原寺跡



34 吉備姫王墓



32 欽明天皇陵（檜隈坂合陵）



35 天武・持統天皇陵（檜隈大内陵）



33 牽牛子塚古墳・越塚御門古墳



36 芋峠



構成文化財の写真⑦

37 飛鳥川上坐宇須多伎比売命神社



38 女淵



39 南無天踊り



40 高松塚古墳壁画



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
11	日本国創成のとき～飛鳥を翔（かけ）た女性たち～

(1) 将来像（ビジョン）

【総合ビジョン】

『歴史』『文化』『自然』が息づき 多様な交流が育める 魅力ある“飛鳥”

日本遺産を物語る飛鳥の歴史・文化・自然などの地域資源を活用し、来訪者が楽しんで回遊したり、ゆっくりと滞在しながら飛鳥の魅力を体感し、交流できる空間や仕掛けを創出し“人”“地域”“産業”の元気を生み出す。

【ビジョンの詳細】

これまでの取組

第1期（H27～R2）、第2期（R3～R5）地域活性化計画期間には、構成文化財の整備による遺跡の見える化、語り部やプロガイド等の人材育成、啓発を重点的に実施し、日本遺産「飛鳥」のストーリーを通じて飛鳥地域内に多く所在する歴史文化資源の魅力を世界に発信し、国内外から多くの人に来訪してもらうきっかけ作りを行ってきた。これらの取組により、その結果、多彩な体験型プログラム・ツアーなどを通じて飛鳥時代を体感できるようになりつつあるが、インバウンドや幅広い年齢層の来訪者に対してその魅力を明確かつ適切に伝えることができていない。今後誇るべき飛鳥地域の資産が、日本遺産飛鳥のストーリーによって誰もが受け入れやすく親しみやすいものとして活用し、地域経済により効果的に繋げていくことが重要となっている。

「飛鳥」地域の特質と目指すべき姿

飛鳥地域には日本国創成の軌跡を物語る多くの歴史遺産が存在し、豊かな自然と万葉集で詠われた風景、棚田などの農村環境、集落のまち並み、祭礼行事が多様な歴史文化資源が一体となった歴史的風土が形成されている。そのため、古くから考古学・歴史ファンや自然や景観を楽しむ来訪者が訪れる観光地として知られてきた。一方、地下に眠る遺跡が主体となる歴史文化資源であるが故に価値がわかりにくく、著名な遺跡のみを訪問する短期・通過型観光が主流となっている。

このような地域の特質を踏まえ、歴史的景観と共存し、日本遺産を通じて地域への誇りと愛着を高めるとともに、日本遺産ストーリーを最大限に活用し、地域振興に繋げていく。観光の観点からは、深い体感や新たな魅力の発見を通じ、滞在の長期化や飛鳥ファンの拡大とリピーターを創出し、宿泊者数を増加させ、消費単価の底上げを図ることで地域内の経済活動の活性化を目指す。

第3期（R6～R11年度）計画における詳細ビジョン

地域内の経済活動を活発化させるため、全体の方向性を定めて実施していく上で中心と

なる発信力を持ったトータルコーディネーター（司令塔）を育成していく。当面は行政がその役割を担い、民間等へバトンタッチしていくことを目指す。実務面では、民間事業者との連携強化を図る上で、実務プロジェクトチームを設置する。当面の間は協議会がその主体となるが、民間参画者を増やし、自主的な実施へと移行させていく。今後、民間事業者内に日本遺産の窓口であるナビゲーターを育成し、さらに、ナビゲーターの中からトータルナビゲーターを輩出し、将来的に民間事業者からトータルコーディネーター（司令塔）の育成を目指す。

来訪者に安全安心、快適に日本遺産飛鳥に触れる旅を楽しんでいただく。そして、日本遺産飛鳥を活用した事業者の自立自走するための取り組みを支援し、日本遺産を題材とした商品化を行い観光・経済活性化の好循環を確保し、持続可能な地域を目指していく。

そして、来訪者へのおもてなしの心を持ち、観光事業等へのサポートにより地域産業を活性化させて、関係人口や移住者の増加を目指す。

来訪者や地域住民が歴史文化資源の保存の重要性を改めて認識し、自らステークホルダーとなって保存・活用に参画できるようになる。

これらを通じて、インバウンドや幅広い層に向けて、歴史文化資源の保存と継承、魅力向上による観光・経済活性化の好循環を確保し、持続可能な地域を目指す。

【上位計画への位置づけ】

・『第5次明日香村総合計画』（令和2～11年度）

『唯一無二の多様な歴史資産と豊かな自然環境の中で「くらし」「なりわい」「たたずまい」がある明日香村の価値を最大限に活用している。村全体を屋根のない博物館とする明日香まるごと博物館づくりの取り組み』として世界遺産登録と日本遺産の活用を位置づけてきた。「日本国創成のとき～飛鳥を翔た女性たち」をはじめとする日本遺産を「飛鳥・藤原の宮都」の世界遺産登録に向けた取組と連携する。そして、地域課題の克服のため多様な主体との協働による村づくりを目指す。この取り組みの基礎となる歴史文化の保存・活用の基本理念として、『明日香村歴史文化基本構想』（平成27年3月策定）では、「日本国はじまりの地」「あすかびとの暮らし」「日本人のこころのふるさと」の3要素が持つポテンシャルを最大限に発揮し、相互に関係し合う明日香村の価値を“学び、育み、活かす”ことを掲げている。

・『橿原市第4次総合計画』（令和3～12年度）

政策の目標の一つを”みんなが活力と魅力を生み賑わいあふれるまち”としている。「飛鳥・藤原」の世界遺産登録に向け、関係自治体との連携を強化し、市民の機運を高めてきた。「飛鳥・藤原」の世界遺産登録を促進し、”市民が橿原市の歴史と文化財に誇り愛着を持ち、その心を次世代へ引き継ぐこと”を橿原市の目指す姿に挙げている。

・『高取町まち・ひと・しごと創生総合戦略』（令和2～7年度）

基本目標の一つとして『訪れたくなるまち、住みたくなるまち 高取』を掲げてきた。歴史的遺産が数多く点在している飛鳥地方の一角として、新たな観光資源の掘り起こしと磨き上げの手段に“日本遺産「日本国創成のとき～飛鳥を翔た女性たち」の魅力発信（ホームページやストーリー本の作成、シンポジウムの開催、説明板の設置等）を行ってきた。それらを観光資源の魅力創出を図る”と掲げている。

・文化観光振興法に基づく『明日香まるごと博物館地域計画』（明日香村、令和2～6年度）

日本遺産「飛鳥」の構成文化財や世界遺産構成資産候補である史跡を文化観光拠点施設と位置づけている。計画では、日本国創成の数々のドラマを再現して史跡にストーリー性と付加価値を持たせ、飛鳥地域の歴史的魅力や特色を伝えるツールとして日本遺産を活用した文化観光を推進している。

・文化観光振興法に基づく『いかす・なら地域計画』（奈良県、令和2～6年度）

日本遺産や世界遺産の資産が多く存在することが地域の強みとなっており、これらを全体のブランディングを行い、活用するとしている。現在、『明日香まると博物館地域計画』と『いかす・なら地域計画』が連携して文化観光における事業を推進している。

（２）地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－Ａ：主要施設（石舞台古墳等７カ所）の観光客数

年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	333,000 (明日香村 5箇所の み)	460,000 (明日香村 5箇所の み)	440,000 (明日香村 5箇所の み)			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	477,000	481,000	486,000	491,000	496,000	501,000

指標・目標値の設定の
考え方及び把握方法

入場者数が把握可能な主要施設の観光客数を指標とする。
橿原市、高取町、明日香村で毎月把握し集計している。毎年1%
増100以下切り上げを見込む。

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－Ｂ：具体的な指標：主要施設（石舞台古墳等３カ所）の外国人観光客数

年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	100	900	3,900			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	3,300	3,400	3,500	3,600	3,700	3,800

指標・目標値の設定の
考え方及び把握方法

入場者数が把握可能な主要施設の外国人観光客数を指標とする。

	明日香村観光担当部局で毎月把握し集計している。毎年 1%増（100 以下切り上げ）を見込む。
--	--

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－A：具体的な指標：地域の文化に誇りを感じボランティア活動を行う住民の延べ活動人数						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	400	2,700	1,900			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	2,800	2,900	3,000	3,100	3,200	3,300
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	ボランティアガイドの窓口である 3 自治体の観光協会から聴取する。毎年 1%増（100 以下切り上げ）を目標とする。					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：日本遺産の構成文化財を活用した旅行商品の数						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	28	11	36			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	11	12	13	14	15	16
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	協議会の構成団体で把握している数を指標とする。毎年 1 件増を目標とする。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産や文化財に関連したふるさと納税額						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	8,407,000 円	12,144,000 円	13,342,000 円			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	14,000,000 円	15,000,000 円	16,000,000 円	17,000,000 円	18,000,000 円	19,000,000 円

指標・目標値の設定の 考え方及び把握方法	文化財保存や景観維持に対するふるさと納税を実施し、収益による文化財保存活用事業の実施サイクルを実現する。
-------------------------	--

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：2市村の宿泊者数（檀原市と明日香村）						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	130,000	201,000	97,729			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	206,000	215,000	223,000	231,000	239,000	247,000
指標・目標値の設定の 考え方及び把握方法	2市村の宿泊施設の宿泊者数を把握する。 檀原市と明日香村観光担当部局で毎月把握し集計している。檀原市毎年7,000人増、明日香村毎年2,000人増、（100以下切り上げ）を見込む。					

(3) 地域活性化のための取組の概要

日本遺産のストーリーを最大限に活用しながら、地域住民や来訪者にその魅力を明確かつ適切に伝えるための磨き上げをさらに充実させ、地域活性化に繋げていく。

【令和5年度までの取組】

・構成文化財の磨き上げ

日本遺産「飛鳥」の構成文化財の多くが地下に埋もれた遺跡であり、その価値やそれぞれの関係性を現地で理解することが難しい状態であった。そこで、文化財の保全や周辺環境の整備を進め、現地を訪れてその価値を理解できるような**構成文化財の磨き上げ**を行った。令和3年度には、牽牛子塚古墳の整備が完了し、飛鳥時代を代表する八角形墳の姿が再現された。日本遺産「飛鳥」のヒロインの一人である斉明天皇を葬ったと考えられ、数多くの来訪者が訪れる人気スポットとなった。ここでは構成文化財の「見える化」を目指して、日本遺産「飛鳥」のサブストーリーとして斉明女帝の娘の間人皇女や孫の大田皇女を取り上げた三皇女物語のドラマ映像を制作し、現地ガイドツアーで鑑賞する**体験型コンテンツ**を実施している。また、藤原宮跡を始めとする構成文化財周辺では季節の花の植栽を行ない、保全や活用について啓発を行いながら来訪者の増加に努めている。

・「語り部」によるストーリーの伝達

人物にスポットをあてた日本遺産「飛鳥」では、ストーリーをいかに伝達し、構成文化財と結びつけるかが重要である。そのため、来訪者に日本遺産「飛鳥」のストーリーを伝える現地ガイドの「語り部」を養成し、体験型プログラム・ツアーを造成している。

また、高いガイドスキルを備えた有料の「**プロガイド**」の育成にも着手し、令和6年3月に認定を行い、日本遺産を通じた郷土への誇りと愛着を高めるとともに人材育成の継続強化を図ってきた。

・啓発

日本遺産「飛鳥」の認知度向上のため、普及啓発活動に取り組んだ。また、関連するサブストーリーの掘り起こしを狙い、飛鳥時代を想起できる幻の芸能「伎楽」再現プロジェクトにも取り組んできた。

これらの取り組みを今後も続けながら、地域経済への波及効果に繋げる上で以下の課題が挙げられる。

【課 題】

- ・課題①民間事業者との連携が不十分であり民間の司令塔がない。
- ・課題②来訪した方が日本遺産を周遊する際にわかりにくい。
- ・課題③日本遺産の商品化ができていない。

【取り巻く状況】

現在、日本遺産「飛鳥」を取り巻く状況は大きく変化している。アフターコロナの観光産業、特にインバウンド需要の急激な回復の余波は未だ当地域には及んでいないものの、令和7年度には**大阪・関西万博**が開催され、世界的に関西地域への関心が高まり、大規模な集客が見込まれる。さらに明日香村は令和5年、国連世界観光機構（UN Tourism）が持続可能な開発目標（SDGs）に沿った世界の優れた観光地を認定する「ベスト

ツーリズムビレッジ」の「アップグレードプログラム」対象地域として選ばれ、令和7年度の認定を目指している。同時期に当該地域では星野リゾートや長谷エコーポレーションによる宿泊施設の開業が予定されており、受入環境の整備も進捗している。令和8年度には、同じ飛鳥地域の歴史的・文化的資源を基盤として日本のはじまりを物語るというコンセプトを共有する世界遺産候補「飛鳥・藤原の宮都」の世界遺産登録を目指している。日本遺産のストーリーを通じて、飛鳥・藤原の遺跡の価値の「見える化」を図りながら、飛鳥・藤原の構成文化財や構成資産を深く伝え国内外への発信力強化に向けた相互活用が可能である。このような地域ブランドの強化、世界水準の認知度向上の機会を活かしながら、地域住民の理解と協力のもと、日本遺産「飛鳥」のストーリーを最大限に活用した地域活性化に取り組む。

【令和6年度から令和11年度までの取組】

上記のこれまでの実績、現状と課題を踏まえ、本計画（令和6年度～令和11年度）では、以下の5つの柱を中心に重点的に取組を行う。

計画期間を3年ごとの前期・後期に分け、段階的に取組を行うこととし、前期（令和6～8年度）は世界的な注目度が上昇する契機を活かした啓発活動を行う。そして、魅力的なコンテンツの造成、受け入れ体制環境の強化を行っていく。

後期（令和9～11年度）では、万博や世界遺産登録後のインバウンド需要が一過性のものに終わらないよう、継続的な活動につなげていく。また、造成したコンテンツの運用、海外からの受け入れ（インバウンドマーケティング）を最大限に活用しながら、持続可能な文化観光の確立を目指す。

【取組1 民間事業者との連携による組織整備と人材育成】

① 民間事業者との連携強化を図る「実務プロジェクトチーム」の編成と司令塔の育成

日本遺産飛鳥を活用した取組を進める民間事業者との連携強化を図りながら、協議会における事務担当者レベルでのプロジェクトチームを編成する。そして、地域プレイヤーや商品化に係る関係者と意見交換等を行い、補助金やガバメントクラウドファンディングの活用を検討する。また、新たな旅行商品の造成、オリジナル商品の開発、販路開拓についての検討を進めていき、日本遺産「飛鳥」の窓口やそれらを取りまとめるトータルコーディネーターとなる司令塔を育成する。

ガイドへのつなぎ役となるナビゲーターを育成し、旅行者に安全安心、快適に日本遺産飛鳥に触れる旅を楽しんでいただくため、旅行・交通事業者や商工関係者とワークショップを実施する。その中で、飛鳥女史のストーリーや日本遺産飛鳥に関する専門的知識を習得いただき、日本遺産飛鳥を活用した事業者の自立自走するための取組を支援する。

② 日本遺産「語り部」の育成とその活用

飛鳥地域には多くの文化遺産が存在し、それぞれの歴史や文化を紹介するガイドは存在していた。だが、ストーリーの理解に繋がる仕組みに繋がっていなかったため、日本遺産「飛鳥」の構成文化財とストーリーを関連付けて語ることに特化した「語り部」の育成を行ってきた。今後は、育成した「語り部」のガイドスキルの向上、サブストーリーの拡大に向けた養成講座を継続する。さらには近隣やストーリーに関連が深い他地域の日本遺産との連携にも取り組み、「語り部」を活用した体験型プログラム・ツアー造成

と商品化を推進する。

③ ビジネスモデルとしての「プロガイド」の日本遺産への展開

現在育成中の「プロガイド」は、高いホスピタリティと、来訪者の興味関心に合わせた魅力を伝えることができる。さらに、安全・安心を確保し、高い満足度を獲得できるツアーを自ら造成、提供する有料ガイドを認定している。育成課程や認定後のフォローアップにおいて、日本遺産「飛鳥」のストーリーへの理解を深め、関連ツアーの造成・実施を行い、日本遺産による自立自走につながるビジネスモデルを創出する。

【取組 2 周遊案内と解説機能の充実】

来訪者が安全で快適に飛鳥地域を周遊できるよう、構成文化財等のモデルコースの設定や、個別の構成文化財での解説機能を充実させるなど、日本遺産のストーリーを効果的に巡ることができる情報発信を図る。

①周遊案内と解説機能の見直し

周遊案内図解説板等の見直しによる情報発信の見直しを行いながら、WEBを活用した案内機能やQRコードの設置によるホームページとの連携を行うなど、日本遺産ストーリーに触れていただきやすい環境づくりを行う。

②ホームページの改修

来訪者にとって日本遺産「飛鳥」のストーリーが親しみやすくわかりやすくするため、ホームページの改修を行う。女帝たちのストーリーに応じたルートをマップ上に作成し、来訪者がアクセスすることで、案内ができるページの検討や、QRコードと連動したホームページの案内機能の改修、構成文化財の紹介ページ等の改修のためのアイデア出しを行い、改修を進めていく。また、グーグルビジネスプロフィールの充実化により、インバウンド対応の強化も行っていく。

【取組 3 日本遺産を通じた旅行商品（ツアー商品）の造成】

構成文化財の環境整備、価値やストーリーの「見える化」や受け入れ体制づくりの取り組みを今後も継続・強化する。そして、構成文化財での歴史シーンの再現、ユニークベニューや、古代飛鳥や日本遺産「飛鳥」のストーリーを体験できるコンテンツの造成に取り組む。

一つ目は、地場産業を活用した日本遺産と連携した女性向け旅行商品（ツアー商品）を開発する。二つ目は、体験型プログラム・ツアーで活用可能なコンテンツの開発に取り組み、来訪された方々が古代飛鳥の雰囲気や日本遺産「飛鳥」のストーリーを体験できるようにする。そのほかに、古代飛鳥に大陸から伝わり、盛んに演じられた幻の芸能「伎楽」の再現を活用し、実際に伎楽が演じられたとの記録が残る川原寺や縁の構成文化財での上演を通じて日本遺産「飛鳥」のストーリーを体験する。

【取組 4 日本遺産を通じた商品（物販）開発】

【取組 1】で編成したプロジェクトチームを中心に、地域の民間業者と連携し、語り部やプロガイドの人材を育成し、【取組 3】で造成したコンテンツを活用して、高付加価値で魅力的なツアーなどのプログラムを造成・運用し、事業者の自走を促していく。

日本遺産の商品化についても、民間事業者と連携強化を図りながら、ワークショップで

の意見交換を行う。そして、地域のオリジナル商品の開発（土産品等）、販路開拓についての検討を進め、情報やノウハウの共有、（地場産業）とのコラボを実施する。

【取組5 日本遺産を通じたコンテンツ（体験プログラム）の実施】

地域の民間事業者とともに日本遺産を通じたコンテンツ（体験プログラム）を実施する。首都圏での日本遺産に関連したイベントの実施や日本女性会議2025 橿原（令和6年度開催のプレ大会及び令和7年度開催の本大会）でのPR等で、キャンペーンを実施し、日本遺産をより身近なものとして感じることができる取組を実施する。イベントの実施による観光消費額の増加などを通じて、地域活性化に繋がるビジネスモデルの構築を目指す。他の隣接する日本遺産とのコラボにも取り組んでプログラムの厚みを増すとともに、本地域に点在する多数の魅力的な構成文化財でのイベントの実施により、日本遺産「飛鳥」の周知を図っていく。

（4）実施体制

協議会の名称：日本遺産「飛鳥」魅力発信事業推進協議会

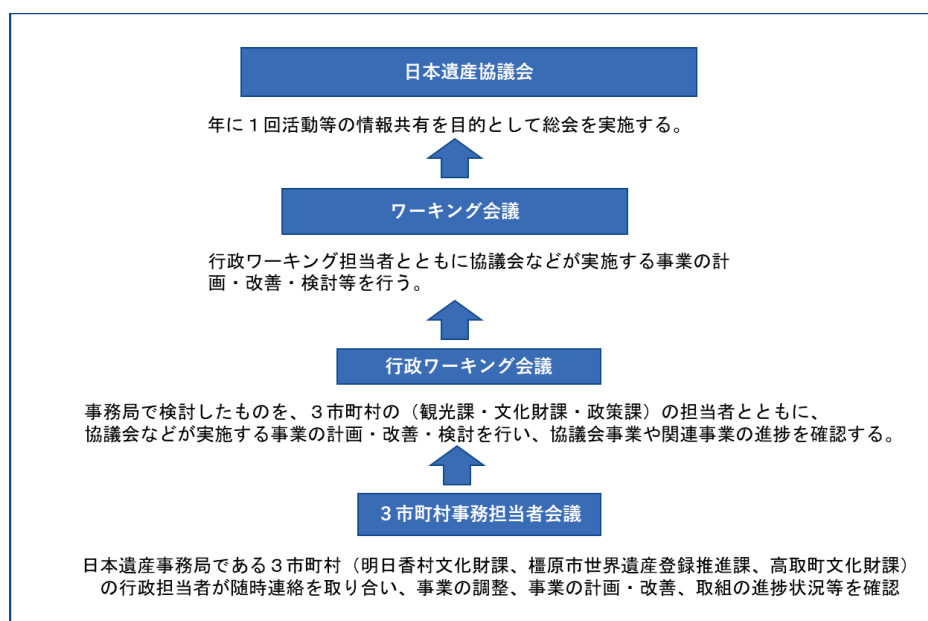
構成団体：

【民間】一般社団法人橿原市観光協会、一般社団法人高取町観光協会、
一般社団法人飛鳥観光協会、橿原商工会議所、高取町商工会、
明日香村商工会、一般財団法人明日香村地域振興公社、
一般社団法人大和飛鳥ニューツーリズム、奈良芸術短期大学

【行政】奈良県（文化財課、世界遺産室、観光戦略課）
橿原市（世界遺産登録推進課、文化財保存活用課、観光政策課）
高取町（教育委員会事務局、総合政策課、まちづくり課）
明日香村（文化財課、総合政策課、観光農林推進課）

明日香村・橿原市・高取町の担当者と随時協議しながら日本遺産の取り組みを推進している。また、民間団体として観光協会・商工会等地域事業者が参画している。

新たに今後の6年間は、日本遺産飛鳥を活用した取組を進める個別の民間事業者と連携強化する。



[人材育成・確保の方針]

民間事業者との連携強化を図り、地域内の経済活動を活発化させるため、「実務プロジェクトチーム」を編成し、連携強化を図る上で中心となるトータルコーディネーター（司令塔）を育成し、商品造成やツアー造成など収益化に向けた取組を進める。当面の間は協議会が実務プロジェクトチームの主体となるが、個々の民間事業者の参画を促し、今後、民間事業者内に日本遺産の窓口であるナビゲーターを育成する。さらに、ナビゲーターの中からトータルナビゲーターを輩出し、将来的に民間事業者からトータルコーディネーター（司令塔）の育成を目指す。

・実務プロジェクトチーム

行政ワーキング担当者と協議会メンバーである民間事業者とともにプロジェクトチームを立ち上げ、日本遺産飛鳥を活用した取組を進める個々の民間事業者の参画を促し、連携強化を図る。

・トータルコーディネーター（司令塔）

日本遺産「飛鳥」の事業全体をとりまとめる。当面は行政主導だが、将来的には、トータルナビゲーターがトータルコーディネーター（司令塔）となるよう育成する。

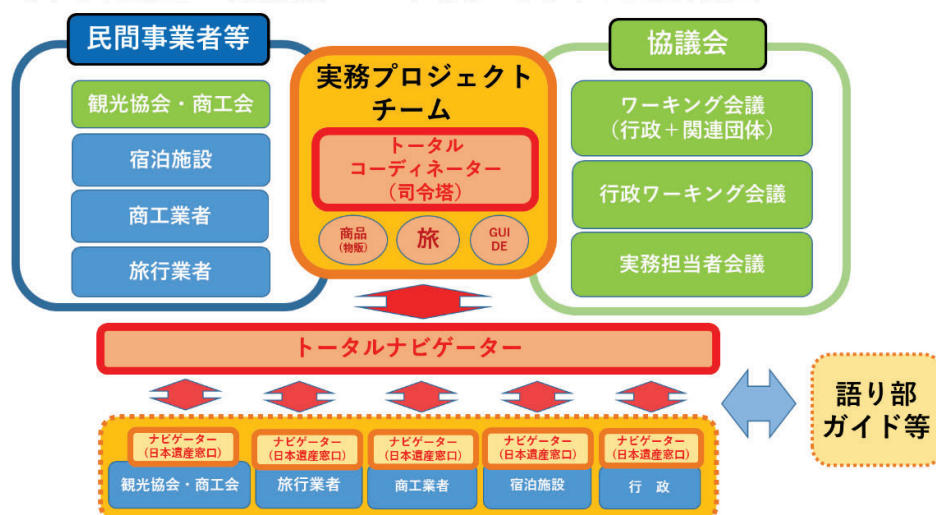
・トータルナビゲーター

個々の民間事業者のナビゲーターの中から全体の調整や語り部、ガイドとのとりまとめ役を担う。

・ナビゲーター

ナビゲーターは、日本遺産を活用した事業を実施する民間事業者（観光協会・商工会、旅行業者、商工業者、宿泊施設等）の窓口であり、来訪者のニーズに柔軟に対応した案内や、事業実施にあたり協議会や他の関連する事業者、語り部、ガイドとのつなぎ役を担う。

日本遺産「飛鳥」の今後に向けた組織図



(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

当協議会は3市町村の負担金をもって運営しながら、構成団体をサポートし、補助金や、ふるさと納税、ガバメントクラウドファンディングを検討しつつ、収益化事業立ち上げのきっかけを創出することで、自立・自走につなげる。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

日本遺産のストーリーによって、飛鳥地域の歴史的文化的資源を誰もが容易に理解できるよう、多様な主体と連携した受け入れ体制の強化、体験コンテンツの整備環境づくりなどに対し協議会等がサポートする。またファンの拡大とリピーター創出へ繋げるため、来訪意欲や来訪者の満足度が向上するよう、協働による日本遺産を活用した地域づくりを行う。また日本遺産を活かした観光関連施策を創出し、従来にない視点からの誘客を促進することで、関連する観光事業者だけでなく、周辺地域の事業者にも波及効果が生まれるよう、地域全体の活性化を目指す。

また、日本遺産等による魅力発信を契機として、主に来訪者に対する文化財の保存や景観維持を目的としたふるさと納税による寄付金・協力金の募集を引き続き実施する。また、日本遺産のストーリーや文化財等を活用した物販による収益化事業を展開する。そして、適切な文化財保護と新たな事業展開へ繋げるため収益化事業を安定化させながら、地域住民や来訪者、関係事業者が一体となって地域全体が改めて歴史文化資源の意義やその保存の重要性を認識する。そのような観光経済の活性化と維持管理経費の捻出サイクルの好循環を確立し持続できる環境づくりを創出する。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	日本遺産「飛鳥」魅力発信事業推進協議会運営		
概要	※定例の連絡会議の設置 協議会事業の実施や、各構成団体の活動等の情報共有を目的として、協議会、行政・民間の構成団体担当者と連絡調整を行い、年1回総会を実施する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	協議会総会の実施	協議会、行政・民間の構成団体が、活動等の情報共有を目的として、年に1回総会を行う。	日本遺産「飛鳥」魅力発信事業推進協議会
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	協議会総会実施回数		実績値 1 回
2022			実績値 1 回
2023			実績値 1 回
2024	協議会総会実施回数		目標値 1 回
2025	協議会総会実施回数		目標値 1 回
2026	協議会総会実施回数		目標値 1 回
2027	協議会総会実施回数		目標値 1 回
2028	協議会総会実施回数		目標値 1 回
2029	協議会総会実施回数		目標値 1 回
事業費	2024 年度：1,337,390 円 2025 年度：1,513,420 円 2026 年度：1,500,000 円		
継続に向けた事業設計	協議会で連携しながら連絡調整等を行う。		
事業費	2027 年度：1,500,000 円 2028 年度：1,500,000 円 2029 年度：1,500,000 円		
継続に向けた事業設計	協議会で連携しながら連絡調整等を行う。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - A)

事業名		地域活性化計画推進会議	
概要		協議会構成団体と連携を取りながら、ワーキング会議の実施、行政担当者による行政ワーキング会議を開催し、連絡調整を行う。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	ワーキング会議	行政ワーキング担当者とともに協議会などが実施する事業の計画・改善・検討等を行う。	日本遺産「飛鳥」 魅力発信事業推進協議会
②	行政ワーキング開催	事務局で検討したものを、3市町村の（観光課・文化財課・政策課）の担当者とともに、協議会などが実施する事業の計画・改善・検討を行い、協議会事業や関連事業の進捗を確認する。	橿原市 高取町 明日香村
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	行政ワーキング開催回数		実績値：2回
2022			実績値：2回
2023			実績値：2回
2024	ワーキング会議開催回数、行政ワーキング開催回数	目標値：3回	
2025	ワーキング会議開催回数、行政ワーキング開催回数	目標値：3回	
2026	ワーキング会議開催回数、行政ワーキング開催回数	目標値：3回	
2027	ワーキング会議開催回数、行政ワーキング開催回数	目標値：3回	
2028	ワーキング会議開催回数、行政ワーキング開催回数	目標値：3回	
2029	ワーキング会議開催回数、行政ワーキング開催回数	目標値：3回	
事業費	2024 年度：0 円 2025 年度：0 円 2026 年度：0 円		
継続に向けた事業設計	協議会構成団体で連携し、事業の調査・検討等を行い事業の進捗を確認する。		
事業費	2027 年度：0 円 2028 年度：0 円 2029 年度：0 円		
継続に向けた事業設計	協議会構成団体で連携し、事業の調査・検討等を行い事業の進捗を確認する。		

(事業番号 2 - B)

事業名		3市町村事務担当者会議	
概要		3市町村で連携を取りながら、行政担当者による会議を実施し、連絡調整を取り合う。	

	取組名	取組内容	実施主体
①	3市町村事務担当者会議の開催	日本遺産事務局である3市町村（明日香村文化財課、橿原市世界遺産登録推進課、高取町文化財課）の行政担当者が随時連絡を取り合い、事業の調整、事業の計画・改善、取組の進捗状況等を確認する。	橿原市 高取町 明日香村
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021			
2022			
2023			
2024	3市町村担当者会議の実施		目標値：5回
2025	3市町村担当者会議の実施		目標値：5回
2026	3市町村担当者会議の実施		目標値：5回
2027	3市町村担当者会議の実施		目標値：5回
2028	3市町村担当者会議の実施		目標値：5回
2029	3市町村担当者会議の実施		目標値：5回
事業費	2024年度：0円 2025年度：0円 2026年度：0円		
継続に向けた事業設計	3市町村事務担当者で連携し、関連な意見交換を行って会議を進める。		
事業費	2027年度：0円 2028年度：0円 2029年度：0円		
継続に向けた事業設計	3市町村事務担当者で連携し、関連な意見交換を行って、会議を進める。		

（事業番号2-C）

事業名	実務プロジェクトチームの編成		
概要	行政ワーキング担当者と協議会メンバーである民間事業者とともにプロジェクトチームを立ち上げ、日本遺産飛鳥を活用した取組を進める個々の民間事業者の参画を促し、連携強化を図る。商品造成やツアー造成など収益化に向けた取組を進める。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	実務プロジェクトチーム会議	意見交換を行い、民間業者とワークショップを行い、新たな旅行商品の造成、オリジナル商品の開発、販路開拓についての検討を行う。	日本遺産「飛鳥」魅力発信事業推進協議会、民間事

			業者
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021			
2022			
2023			
2024	実務プロジェクトチーム会議の開催	目標値：2回	
2025	実務プロジェクトチーム会議の開催	目標値：2回	
2026	実務プロジェクトチーム会議の開催	目標値：2回	
2027	実務プロジェクトチーム会議の開催	目標値：2回	
2028	実務プロジェクトチーム会議の開催	目標値：2回	
2029	実務プロジェクトチーム会議の開催	目標値：2回	
事業費	2024 年度：0 円 2025 年度：0 円 2026 年度：0 円		
継続に向けた 事業設計	行政と民間事業者と実務プロジェクトチームを編成し、ワークショップを実施し、情報共有、ノウハウ共有、商品のコラボ等。民間事業者のまきこみ（横の連携）、商品開発等へ繋げていき、民間事業者との連携強化を図るため、トータルコーディネーターとなる司令塔を育成する。		
事業費	2027 年度：0 円 2028 年度：0 円 2029 年度：0 円		
継続に向けた 事業設計	2027 年以降も引き続きワークショップを実施し、司令塔が中心となり、情報共有、ノウハウ共有、商品のコラボ等を行い、商品開発等へ繋げるための自立自走を促す。		

(7) - 3 人材育成			
(事業番号3-A)			
事業名	語り部養成事業		
概要	令和5年度までは、日本遺産「飛鳥」の構成文化財とストーリーを関連付けて語ることに特化した「語り部」の育成を行ってきた。今後は、育成した「語り部」のガイドスキルの向上、サブストーリーの拡大に向けた養成講座を継続し、人材を増やしていく。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	語り部育成	飛鳥に訪れた方に日本遺産の価値を伝えることができる人材を育成する。研修講座を実施し、日本遺産を語ることに特化した人材を増やしていく。	日本遺産「飛鳥」魅力発信事業推進協議会
②			

③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	語り部延べ活動者数		1人
2022			1人
2023			1人
2024	語り部延べ活動者数		目標値 2人
2025	語り部延べ活動者数		目標値 3人
2026	語り部延べ活動者数		目標値 4人
2027	語り部延べ活動者数		目標値 5人
2028	語り部延べ活動者数		目標値 6人
2029	語り部延べ活動者数		目標値 7人
事業費	2024 年度：0 円 2025 年度：0 円 2026 年度：0 円		
継続に向けた事業設計	養成講座の実施により語り部のスキルアップの向上をはかる。		
事業費	2027 年度：0 円 2028 年度：0 円 2029 年度：0 円		
継続に向けた事業設計	近隣やストーリーに関連が深い他地域の日本遺産と連携し、「語り部」を活用した体験型プログラム・ツアー造成をする。		

(事業番号 3－B)

事業名	ナビゲーター育成事業		
概要	日本遺産を活用した事業を実施する民間事業者（観光協会・商工会、旅行者、商工業者、宿泊施設等）の日本遺産の窓口であり、来訪者のニーズに柔軟に対応した案内や、事業実施にあたり協議会や他の関連する事業者、語り部、ガイドとのつなぎ役となるナビゲーターを育成する。さらに、個々の民間事業者のナビゲーターの中からトータルナビゲーターを輩出し、将来的に民間事業者からトータルコーディネーター（司令塔）を育成する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ナビゲーター育成	日本遺産の窓口である民間事業者内にナビゲーターを育成する。また、毎年民間事業者の参画を増やしていき、ナビゲーターの中からトータルナビゲーターを輩出する。将来的に民間事業者からトータルコーディネーター（司令塔）の育成を目指す。	日本遺産協議会、民間事業者
②			
③			
④			

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2021	ナビゲーター育成人数	0人
2022		0人
2023		0人
2024	ナビゲーター育成人数	3人
2025	ナビゲーター育成人数	4人
2026	ナビゲーター育成人数	5人
2027	ナビゲーター育成人数	6人
2028	ナビゲーター育成人数	7人
2029	ナビゲーター育成人数	8人
事業費	2024年度：0円 2025年度：未定 2026年度：未定	
継続に向けた事業設計	日本遺産の窓口である民間事業者内にナビゲーターを育成する。	
事業費	2027年度：未定 2028年度：未定 2029年度：未定	
継続に向けた事業設計	ナビゲーターの中からトータルナビゲーターを輩出し、民間事業者からトータルコーディネーター（司令塔）を育成する。	

（事業番号3-C）

事業名	プロフェッショナルガイド養成事業		
概要	日本遺産や世界遺産を含む日本遺産飛鳥地域全体を総合的に解説できるプロフェッショナルガイドの養成を実施する。専門的知識の獲得だけではなく、多言語化にも対応し、来訪者の有する知識や年齢等に合わせたきめ細かな解説等が実施できる人材の養成プログラムとする。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	プロフェッショナルガイド養成プログラム	来訪者の興味関心に合わせた魅力を伝えることができる安全・安心を確保した高い満足度となるツアーを造成、提供できるプロガイドを育成し、多様なニーズに応える人材を確保する。プロガイドは養成研修を受け、試験に合格した者がプロガイドとなる。令和5年度には5名程度のプロガイドを認定し、令和6年度以降にはさらなる認定を行い、幅広いニーズに対応できる人材を確保する。 養成課程や養成後のフォローアップの中では、日本遺産に関する知識やストーリーを深め、関連するツアー実施に繋げる。今後は、独自でツアーを造成し販売を行い、自立自走に向けて進める。	橿原市、高取町、明日香村
②			

③			
④			
年度	事業評価指標	実績値・目標値	
2021	プロフェッショナルガイドの年間認定数	0 人	
2022		0 人	
2023		5 人	
2024	プロフェッショナルガイドの年間認定数	6 人	
2025	プロフェッショナルガイドの年間認定数	7 人	
2026	プロフェッショナルガイドの年間認定数	8 人	
2027	プロフェッショナルガイドの年間認定数	9 人	
2028	プロフェッショナルガイドの年間認定数	10 人	
2029	プロフェッショナルガイドの年間認定数	11 人	
事業費	2024 年度：4,360,000 円 2025 年度：0 円 2026 年度：0 円		
継続に向けた事業設計	プロガイド認定後も、モニターツアーの実施、研修等を行いフォローアップにも力を入れる。		
事業費	2027 年度：0 円 2028 年度：0 円 2029 年度：0 円		
継続に向けた事業設計	さらに日本遺産「飛鳥」への理解を深め、関連ツアーの造成・実施を行う。		

(事業番号 3-D)

事業名	インバウンド向けガイド育成事業		
概要	滞在時間を延長させ、地域に経済効果を生み出すことを目的に、地域の魅力を訴求するのに重要な役割をもつ観光ガイド育成研修を実施する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	インバウンド向けガイド育成研修プログラム	インバウンド観光ガイド実践経験をもとにインタープリテーション型(相手のニーズをくみ取り、お客様に喜んでいただく)のガイドの育成を心掛け、高付加価値旅行者の満足度を向上させる。また、ガイド業として稼ぐことにより、雇用を創出させ、ガイド業の魅力を若者に発信することで、村内雇用にも繋げることが出来る。	明日香村商工会
②			
③			
④			
年度	事業評価指標	実績値・目標値	
2021	ガイド実施人数	0 人	
2022		0 人	
2023		0 人	

2024	ガイド実施人数	2 人
2025	ガイド実施人数	3 人
2026	ガイド実施人数	5 人
2027	ガイド実施人数	6 人
2028	ガイド実施人数	8 人
2029	ガイド実施人数	10 人
事業費	2024 年度：4,360,000 円 2025 年度：0 円 2026 年度：0 円	
継続に向けた事業設計	インバウンド向けの育成研修を行い、ガイドを育成する。	
事業費	2027 年度：0 円 2028 年度：0 円 2029 年度：0 円	
継続に向けた事業設計	さらに日本遺産「飛鳥」への理解を深め、関連ツアーの造成・実施を行う。	

(事業番号 3-E)

事業名	ボランティアガイド養成事業		
概要	地域のボランティアガイドの養成講座の実施。価値を伝える人材、価値を深める人材、周知する人材の育成を目的とし、観光ボランティアガイドを育成する。定期的に研修講座を行い、日本遺産の魅力を発信し、訪れた方に日本遺産を周知できるようにする。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ボランティアガイド講座	地域内の観光ボランティアガイドへの研修講座を定期的に行い、スキルアップを図る。	日本遺産「飛鳥」魅力発信事業推進協議会、橿原市、高取町、明日香村、橿原市観光協、高取町観光協会、飛鳥観光協会
②	歴博展示解説ガイド	歴史に憩う橿原市博物館の入館者に対し、橿原市の縄文時代から江戸時代までの歴史を解説できるガイドの養成を実施する。特に飛鳥時代、藤原京の解説について、詳細な解説を行い、日本遺産に関連する文化財の魅力を伝え、来訪を促せる人材を育成する。	橿原市
③	吉野町連携事業（日本遺産魅力増進事業）	令和 5 年度の日本遺産魅力増進事業を活用し、日本遺産「飛鳥」と関係が深い吉野地域との連携を継続させる。ガイドツアーの相互視察やガイド同士の	明日香村商工会

		交流・セミナー・意見交換会等の相互連携を図り、2泊3日以上飛鳥・吉野地域連携ツアーの企画・造成やセミナー・意見交換会などを実施することで、地域間の理解促進及び 受入れ強化やプロモーションへとステップアップを図る。	
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	ボランティアガイド延べ活動者数		400人
2022			2,689人
2023			2,257人
2024	ボランティアガイド延べ活動者数		目標値 1,900人
2025	ボランティアガイド延べ活動者数		目標値 2,000人
2026	ボランティアガイド延べ活動者数		目標値 2,100人
2027	ボランティアガイド延べ活動者数		目標値 2,200人
2028	ボランティアガイド延べ活動者数		目標値 2,300人
2029	ボランティアガイド延べ活動者数		目標値 2,400人
事業費	2024年度：0円 2025年度：0円 2026年度：0円		
継続に向けた事業設計	価値を伝える人材、価値を深める人材、周知する人材の育成にむけて地域の方々と連携する。		
事業費	2027年度：0円 2028年度：0円 2029年度：0円		
継続に向けた事業設計	地域との連携により、日本遺産の魅力を伝えていく。		

(事業番号3－F)

事業名	地域事業者育成事業		
概要	日本遺産のストーリーを活用する人材の育成を目的として、来訪者に直接接する宿泊・商工事業者及び交通事業者等に対して、日本遺産を来訪者対する日本遺産の周知方法や活用方法について意見交換等を行うワークショップを開催する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	宿泊・商工関係事業者との意見交換会の開催	日本遺産のストーリーの理解を促し、日本遺産の周知方法や活用方法について事業者とともに考え、意見交換するワークショップを開催する。	日本遺産「飛鳥」魅力発信事業推進協議会、民間事業者

②	交通事業者との意見交換会	地域公共交通の運転手や事業者やレンタサイクル事業者と日本遺産の周知や活用方法について意見交換するワークショップを開催する。地域を周遊する上で、日本遺産ストーリーの魅力や日本遺産の価値、周知方法等を地域事業者とともに考え、意見交換するワークショップを開催する。	日本遺産「飛鳥」魅力発信事業推進協議会、交通事業者
③			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	意見交換会開催数		1回
2022			1回
2023			3回
2024	意見交換会開催数		目標値：①1回、②1回
2025	意見交換会開催数		目標値：①3回、②1回
2026	意見交換会開催数		目標値：①3回、②1回
2027	意見交換会開催数		目標値：①3回、②1回
2028	意見交換会開催数		目標値：①3回、②1回
2029	意見交換会開催数		目標値：①3回、②1回
事業費		2024年度：0円 2025年度：0円 2026年度：0円	
継続に向けた事業設計		日本遺産の周知に向けて、地域事業者と意見を交換し、連携して価値を伝えることができるように毎年意見交換の場を作る。	
事業費		2027年度：0円 2028年度：0円 2029年度：0円	
継続に向けた事業設計		地域事業者が日本遺産「飛鳥」についての理解を深め、訪れた方に魅力を伝えることができるようなワークショップを実施する。	

(7) - 4 整備

(事業番号4-A)

事業名		解説機能・案内整備事業	
概要		来訪者が安全で快適に日本遺産飛鳥を周遊できるよう、周遊案内解説機能を充実させるために、構成文化財等のモデルコースの周知、個別の構成文化財での解説機能の充実をはかり、解説板やWEBを使った情報発信を図る。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	解説・案内整備事業	解説案内機能の充実を図るため、新たな設置を検討する。解説板や周遊案内図等の見直しを行いながら、必要箇所に解説板または、QRコードを設置し、飛鳥女史のルート	日本遺産「飛鳥」魅力発信事業推進協議会

		を示す。周遊の起点や、主な観光施設やポイントとなる施設で初めて来た人が一目でモデルコースがわかるよう周遊マップの作成等で飛鳥女史ゆかりの場所を巡ることができるようにする。	
②	ホームページの改修事業	来訪者により、日本遺産「飛鳥」を理解していただくために、ホームページの改修を行う。Google マップや Google ビジネスプロフィール等を活用し、よりわかりやすい案内ページを整備し多言語化にも対応する。女帝たちのストーリーに応じたルートをマップ上に作成し、来訪者がアクセスすることで、案内ができるページの検討や、QR コードと連動したホームページの案内機能、構成文化財の紹介ページ等の改修を実施する。	日本遺産「飛鳥」魅力発信事業推進協議会
③	歴史展示推進事業	明日香村埋蔵文化財展示室等において、歴史文化資源の調査によって得た情報を速報展・企画展、発掘体験等を通じて公開する。また、語り部による解説により発信し、地下遺構を積極的に公開する。日本遺産のストーリーや世界遺産のみならず、その背景にある関連ストーリーも併せて紹介していく。さらに VR・AR を用いて飛鳥時代の遺跡の造営当初の姿やその造営過程を視覚的に認識できる展示のための映像を制作するとともに、既存の映像等との連携を図る。特に VR については、飛鳥を空から眺める仕組みを構築し、通常では見ることのできない新たな飛鳥の魅力を発信する。	橿原市、明日香村、飛鳥観光協会
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	①明日香村観光実態調査 受け入れ環境に対する満足度（案内・誘導について）やや満足以上 ②埋蔵文化財展示室入館者数（土日祝のみカウント）		①55.7% ②6,500 人
2022			①45.0% ②6,500 人
2023			①60% ②4,700 人
2024	①明日香村観光実態調査 受け入れ環境に対する満足度（案内・誘導について）やや満足以上		①60% ②4,400 人 ③23,100 人

	②公式ホームページアクセス数 ③埋蔵文化財展示室（土日祝のみカウント）と藤原京資料室の合計入館者数	
2025	①明日香村観光実態調査 受け入れ環境に対する満足度（案内・誘導について）やや満足以上 ②公式ホームページアクセス数 ③埋蔵文化財展示室（土日祝のみカウント）と藤原京資料室の合計入館者数	①61% ②4,500 人 ③23,700 人
2026	①明日香村観光実態調査 受け入れ環境に対する満足度（案内・誘導について）やや満足以上 ②公式ホームページアクセス数 ③埋蔵文化財展示室（土日祝のみカウント）と藤原京資料室の合計入館者数	①62% ②4,600 人 ③24,300 人
2027	①明日香村観光実態調査 受け入れ環境に対する満足度（案内・誘導について）やや満足以上 ②公式ホームページアクセス数 ③埋蔵文化財展示室（土日祝のみカウント）と藤原京資料室の合計入館者数	①63% ②4,700 人 ③24,900 人
2028	①明日香村観光実態調査 受け入れ環境に対する満足度（案内・誘導について）やや満足以上 ②公式ホームページアクセス数 ③埋蔵文化財展示室（土日祝のみカウント）と藤原京資料室の合計入館者数	①64% ②4,800 人 ③25,500 人
2029	①明日香村観光実態調査 受け入れ環境に対する満足度（案内・誘導について）やや満足以上 ②公式ホームページアクセス数 ③埋蔵文化財展示室（土日祝のみカウント）と藤原京資料室の合計入館者数	①65% ②4,900 人 ③26,100 人
事業費	2024 年度：①14,210,000 円 ②500,000 円 ③7,520,000 円 2025 年度：①③未定 ②0 円 2026 年度：①③未定 ②0 円	
継続に向けた事業設計	わかりやすい解説板の設置や見直し、視覚的に認識できる展示と周辺遺跡との関連性等が理解できる歴史展示を推進する。	
事業費	2027 年度：①②③未定 2028 年度：①②③未定	

	2029 年度：①②③未定		
継続に向けた事業設計	毎年度見直しや、修正等の必要性があるかを精査し、来訪者にわかりやすい解説版や展示を行っていく。		
(事業番号 4－B)			
事業名	観光地基盤整備事業		
概要	来訪者が現地での滞在を楽しめるよう Wi-Fi の整備や、交通の整備を行い、来訪者の満足度につなげる。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	Wi-Fi 整備事業	来訪者が現地でインターネットに接続し情報活用が出来るようにするため、Wi-Fi 環境を追加整備し、さらなる充実を図る。観光拠点となる施設への整備は進んでいるが、日本遺産構成文化財周辺でのネットに接続環境を強化し、インバウンドを含む来訪者にとって理解の促進、満足度向上に繋げる。	日本遺産「飛鳥」魅力発信事業推進協議会、橿原市、高取町、明日香村
②	交通手段確保事業	路線バスやコミュニティバス、タクシーなどの移動手段を確保する。そして、より自由な移動のためのデマンド交通や環境に配慮したグリーンスローモビリティの導入により、ゲートウェイ施設や鉄道駅、史跡・名所、観光拠点施設間の移動手段をつなぎ、来訪者等の移動手段を充実させる。また、自動車により来訪者を抑制し、公共交通への利用転換を図る取組を進める。	橿原市 高取町 明日香村
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	①明日香村観光実態調査 受け入れ環境に対する満足度（やや満足以上の割合） ②周遊バス年間利用者数		①55.7% ②61,336 人
2022			①45.0% ②102,500 人
2023			①60.0% ②103,168 人
2024	①明日香村観光実態調査 受け入れ環境に対する満足度（やや満足以上の割合） ②周遊バス（明日香村赤かめ+橿原市コミュニティバス）年間利用者数		①60% ②103,000 人

2025	①明日香村観光実態調査 受け入れ環境に対する満足度（やや満足以上の割合） ②周遊バス年間利用者数	①60% ②114,000 人
2026	①明日香村観光実態調査 受け入れ環境に対する満足度（やや満足以上の割合） ②周遊バス（明日香村赤かめ+橿原市コミュニティバス）年間利用者数	①60% ②125,000 人
2027	①明日香村観光実態調査 受け入れ環境に対する満足度（やや満足以上の割合） ②周遊バス（明日香村赤かめ+橿原市コミュニティバス）年間利用者数	①60% ②136,000 人
2028	①明日香村観光実態調査 受け入れ環境に対する満足度（やや満足以上の割合） ②周遊バス（明日香村赤かめ+橿原市コミュニティバス）年間利用者数	①60% ②136,000 人
2029	①明日香村観光実態調査 受け入れ環境に対する満足度（やや満足以上の割合） ②周遊バス（明日香村赤かめ+橿原市コミュニティバス）年間利用者数	①②④⑤60% ②136,000 人
事業費	2024 年度：70,170 円 2025 年度：未定 2026 年度：未定	
継続に向けた事業設計	Wi-Fi の整備や、交通の整備を行い、来訪者のリピートにつなげる。	
事業費	2027 年度：未定	2028 年度：未定 2029 年度：未定
継続に向けた事業設計	来訪者が安全安心快適に過ごすことができるよう引き続き、Wi-Fi の整備や、交通の整備を行っていく。またインバウンドの方への満足向上を目指していく。	

(7) - 5 観光事業化			
(事業番号 5 - A)			
事業名	旅行商品開発販売促進事業		
概要	高付加価値な日本遺産の旅行商品の開発を行う。日本遺産に興味のある富裕層をターゲットに日本遺産の魅力をツアー客に伝える付加価値の高いツアーの造成を事業者と共に開発し、その販売を促進する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産旅行商品開発事業	高付加価値な日本遺産の旅行商品の開発を行う。トータルコーディネーターを中心に、事業者と共に日本遺産に興味のある富裕層をターゲットに地元産品（古代米・牛乳を用いた飛鳥鍋・蘇〔古代チーズ〕・薬草）を用いた日本遺産をはじめとする考古遺跡の魅力をツアー客に伝える付加価値	日本遺産「飛鳥」魅力発信事業推進協議会、事業者

		の高いツアーを造成する。インバウンドをターゲットに、ファントリップ（インバウンド商品を取り扱う旅行会社の招聘）等を実施する。そこで民間の飲食店や宿泊施設や旅行者と連携し、女帝をイメージした食事の提供・宿泊を伴う事業を拡大し、より日本遺産「飛鳥」を体感できるようにする。	
②	明日香観光プラットフォーム構築事業	2025 年に地方部を中心に、一人当たりの観光消費額 20 万円・1.5 泊という観光庁の目標も掲げられ、富裕層旅行者の獲得は必要不可欠な時代である。 明日香村においては、これまでに造成した日本遺産構成文化財及びストーリーを活用した体験型アクティビティや食・歴史文化を活用したガストロノミーツーリズムプランや宿泊・移動交通などをセットにし、1 滞在 30 万円以上の滞在型の過ごし方を欧米豪の高付加価値旅行者層を対象に提供する。 継続的に事業を実施することで、観光消費額や域内調達率の向上・域内雇用創出を図ることを目的とする。 欧米豪の訪日旅行者層をターゲットに、明日香村における「ウリ・ヤド・ヒト・コネ・アシ」をテーマに体験プラン、宿泊施設、旅をエスコートするガイド人材、富裕層を獲得する人脈・ネットワーク、シームレスな移動をニーズに合わせてコーディネートし、高付加価値な滞在型プランとして提供を図る。 体験価値としては「ここにしかできない・あなただけの」をテーマに推進していく	明日香村商工会
③	文化財収益化事業	明日香村で実施しているオリジナル御朱印「飛鳥乃余韻」と連携し、収益化を図る商品を開発する。 牽牛子塚古墳特別エリア見学による有料ガイド【料金：500 円(税込)、所要時間：約 45 分】を実施しており、その収益をもってさらなる文化財の保存と活用を推進し、地域に広げていく。	橿原市、明日香村

		有料ガイドについては、プロガイドがガイドを務めることにより、プロガイドが自立自走できる人材育成にもつながっている。	
④	観光振興事業	明日香村の歴史・文化・自然等の地域資源を活用した観光地経営を推進するため、文化財を活用した収益化事業やプロガイド人材育成を実施する。 また、世界遺産登録の機運醸成に向けた住民参加型イベントの実施や、インバウンド対応の充実化に向けたデジタル情報の拡充を図る。 文化財を活用した周遊促進、街ガチャを活用した観光振興や、観光デジタル情報の拡充を行う。	明日香村
⑤	大和飛鳥民家ステイ（教育民泊事業）	国内外の学生（子供達）を対象として「心から感動する体験」を飛鳥地域で提供する事を目的に実施している教育民泊事業。 過去国内外合わせ、40,371泊の実績があり、増え続けるインバウンド高付加価値旅行者に対する受入れの強化を図る。 ホストファミリーを対象に日本遺産「飛鳥」のストーリーや構成文化財の理解促進を図る講義や研修を定期的実施、来訪する国内外の学生や少人数団体の海外旅行者に対し、日本遺産「飛鳥」の魅力を訴求させる。	一般社団法人大和飛鳥ニューツーリズム
⑥	日本遺産「飛鳥」×高付加価値化 五感で感じる飛鳥のLiving Story イマーシブ体験アクティビティ販売事業	「早朝・昼間・夜間」の時間帯に飛鳥の「歴史・自然・食・景色・人」という5つの要素を五感で体験するアクティビティの造成を実施し、欧米豪市場向けに日本遺産ストーリーを理解させるために視覚化や体験要素を加え、更なる深化を加える。 体験を案内するガイドは、橿原市・高取町・明日香村間で認定された地域通訳案内士を束ねる ATIGA（飛鳥観光通訳ガイド協会）を通して依頼を図り、シリアル型の連携を促進する。	一般社団法人大和飛鳥ニューツーリズム
年度	事業評価指標		実績値・目標値

2021		①0 人（ファムツアーの 為 0 人） ②0 件
2022	①ツアー参加人数 ②ファシリテーター実活動数	①627 人 ②9 件
2023		①720 人 ②15 件
2024	①ツアー参加人数 ②ガイド実活動数 ③牽牛子塚古墳特別エリア見学ツアー料金・ご朱 印売上額 ④観光消費額 ⑤宿泊数 ⑥ツアー売上額	①770 人 ②3 件 ③ 2,701,000 3,248,000 円 ④4,600 円 ⑤5,000 泊 ⑥700,000 円
2025	①ツアー参加人数 ②ガイド実活動数 ③牽牛子塚古墳特別エリア見学・ご朱印売上額 ④観光消費額 ⑤宿泊数 ⑥ツアー売上額	①880 人 ②5 件 ③ 2,728,000 3,280,000 円 ④5,000 円 ⑤6,000 泊 ⑥1,000,000 円
2026	①ツアー参加人数 ②ガイド実活動数 ③牽牛子塚古墳特別エリア見学・ご朱印売上額 ④観光消費額 ⑤宿泊数 ⑥ツアー売上額	①1,320 人 ②10 件 ③ 2,756,000 3,313,000 円 ④5,500 円 ⑤6,500 泊 ⑥1,500,000 円
2027	①ツアー参加人数 ②ガイド実活動数 ③牽牛子塚古墳特別エリア見学・ご朱印売上額 ④観光消費額 ⑤宿泊数 ⑥ツアー売上額	①1,520 人 ②12 件 ③ 2,783,000 3,346,000 円 ④6,000 円 ⑤7,000 泊 ⑥1,800,000 円
2028	①ツアー参加人数 ②ガイド実活動数 ③牽牛子塚古墳特別エリア見学・ご朱印売上額 ④観光消費額 ⑤宿泊数 ⑥ツアー売上額	①1,750 人 ②15 件 ③ 2,811,000 3,379,000 円 ④6,600 円 ⑤8,000 泊

		⑥2,000,000 円
2029	①ツアー参加人数 ②ガイド実活動数 ③牽牛子塚古墳特別エリア見学・ご朱印売上額 ④観光消費額 ⑤宿泊数 ⑥ツアー売上額	①2,000 人 ②20 件 ③ 2,839,000 3,413,000 円 ④7,200 円 ⑤8,000 泊 ⑥2,500,000 円
事業費	2024 年度：①③⑤0 円 ②5,000,000 円予定 ④8,900,000 円 ⑥6,000,000 円 2025 年度：①③⑤0 円 ②未定 ④未定 ⑥未定 2026 年度：①③⑤0 円 ②未定 ④未定 ⑥未定	
継続に向けた事業設計	民間事業者と連携しながら、高付加価値・魅力的なコンテンツの開発に取り組み、日本遺産の体験型プログラムの旅行商品化を図る。	
事業費	2027 年度：①③⑤0 円 ②未定 ④未定 2028 年度：①③⑤0 円 ②未定 ④未定 2029 年度：①③⑤0 円 ②未定 ④未定	
継続に向けた事業設計	民間企業と連携しながら日本遺産の旅行商品の開発を継続するとともに、自走できるビジネスモデルとして確立できるよう取り組む。	

(事業番号 5-B)

事業名	日本遺産関連商品開発・販路開拓事業		
概要	日本遺産飛鳥を活用した取組みを進める民間事業者との連携強化を図りながら、プロジェクトチームを通じて地域プレイヤーや商品化に係る関係者と意見交換等を行い、オリジナル商品の開発、販路開拓を進める。地域の特色ある商品を日本遺産の内容と関連させ、販売の促進を図る。歴史好きな層だけでなく、飛鳥地域内に訪れた若年層や家族連れなどの観光客層にも手に取ってもらえるよう、民間事業者とともに日本遺産の周知と消費単価の向上を目指す。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産関連商品開発・販路開拓事業	プロジェクトチームで意見交換を行いながら、民間事業者と協力して、飛鳥時代や飛鳥女史に関連する地元産品（古代米・薬草等）を用いた歴史に紐づく商品の開発、販路開拓を進める。プロジェクトチームで日本遺産飛鳥の啓発と商品の販売促進を図る。	明日香村 橿原市 高取町 商工会 観光協会 商工関係者 民間事業者
②			

③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	普及啓発商品数		0 件
2022			0 件
2023			0 件
2024	普及啓発商品数		1 件
2025	普及啓発商品数		2 件
2026	普及啓発商品数		3 件
2027	普及啓発商品数		4 件
2028	普及啓発商品数		5 件
2029	普及啓発商品数		6 件
事業費	2024 年度：0 円 2025 年度：0 円 2026 年度：0 円		
継続に向けた事業設計	日本遺産飛鳥を活用した取組みを進める民間事業者との連携強化を図りながら、プロジェクトチームを編成し、地域プレイヤーや商品化に係る関係者と意見交換等を行い、新たな旅行商品の造成、オリジナル商品の開発、販路開拓についての検討し、稼働を進める。		
事業費	2027 年度：0 円 2028 年度：0 円 2029 年度：0 円		
継続に向けた事業設計	ワークショップを行いながら、飛鳥女史のストーリーや日本遺産飛鳥に関する専門的知識を事業者に習得いただき、日本遺産飛鳥を活用した事業者が自立自走するための取組みを支援する。		

(事業番号 5-C)

事業名	体験コンテンツ開発事業		
概要	日本遺産に関連する体験型コンテンツの開発を行い、現地での滞在時間、消費単価の増加を目指す。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	「飛鳥民家ステイ」を軸にした高付加価値な交流プログラム造成事業（富裕層旅行者向け田舎暮らし体験プログラムの造成・開発）	形だけではない、日本の本当のライフスタイル（田舎暮らし）を体験。 日本遺産構成文化財を活用した体験プランや地域住民との交流型ステイによる現地での滞在時間、消費単価の増加を目指す。 飛鳥の歴史、自然や食及び人との交流を通じ、本物の（authentic）日本の田舎暮らしを通じ、2泊3日以上・1滞在 30 万円以上の域内消費額の増加を図る。欧米豪の少人数の高付加価値旅行者を獲得し、リピート率の向上を図り、継続した販売を目指す	一般社団法人 大和飛鳥ニューツーリズム

		す。ホストファミリーやガイド等を対象に人材育成研修を実施することで、地域全体の付加価値を向上させる。	
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	観光消費額		データなし
2022			4,245 円
2023			4,273 円
2024	観光消費額		目標値 4,200 円
2025	観光消費額		目標値 4,600 円
2026	観光消費額		目標値 5,500 円
2027	観光消費額		目標値 6,000 円
2028	観光消費額		目標値 6,600 円
2029	観光消費額		目標値 7,200 円
事業費	2024 年度：5,000,000 円 2025 年度：未定 2026 年度：未定		
継続に向けた事業設計	専門家を招聘し、ホストファミリーを対象に人材育成やコーディネータを図る、体験型ツアーの実施を行うなど、観光資源を活用して現地での滞在時間、消費単価の増加を目指していく。		
事業費	2027 年度：未定 2028 年度：未定 2029 年度：未定		
継続に向けた事業設計	高付加価値化と共に地域課題プログラムのブラッシュアップを図り、地域のファンを創出。持続可能な地域経営を目指す。		

(事業番号 5－D)

事業名	誘客促進事業		
概要	誘客に向けて、現地及び首都圏や東海圏での PR 事業を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	誘客イベント事業	最新の発掘調査成果や東アジアにおける交流の歴史・万葉文化等の明日香村の歴史文化の魅力を日本遺産「日本国創成のとき～飛鳥を翔た女性たち～」等を活用し、首都圏や東海圏において、講演会や展覧会等を通じてわかりやすく国内外に発信し、PRを行うイベントを実施する。	橿原市、高取町、明日香村

②	観光客周遊促進事業	紙パンフレットに代わる観光情報配信ツールとして名刺サイズの「観光カード」を導入する。観光カードには日本遺産の構成文化財を含む観光スポットの情報だけでなく、周遊ルートの検索やナビゲーション、多言語対応などの機能を持った専用サイトに移行するための QR コードが掲載されており、観光客の新たな周遊促進ツールとして活用していく。	橿原市
③	植栽事業	構成文化財の周辺において、周知と啓発や環境保全を目的として、地域住民と協働で季節の花を植栽する。藤原宮跡では、ハナハス・コスモス・菜の花等を植栽し、高取町では紫陽花を植栽、明日香村では、牽牛子塚古墳にてアサガオを植栽する。	橿原市、明日香村、高取町
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	①村内5施設入場者数 ②③橿原市宿泊者数		①333,000人②③127,000人
2022			①460,000人②③196,000人
2023			①440,000人②③91,944人
2024	①2市村宿泊者数 ②橿原市宿泊者数 ③主要施設（7箇所）の観光客数		①206,000人 ②197,000人 ③477,000人
2025	①2市村宿泊者数 ②橿原市宿泊者数 ③主要施設（7箇所）の観光客数		①215,000人 ②204,000人 ③481,000人
2026	①2市村宿泊者数 ②橿原市宿泊者数 ③主要施設（7箇所）の観光客数		①223,000人 ②210,000人 ③486,000人
2027	①2市村宿泊者数 ②橿原市宿泊者数 ③主要施設（7箇所）の観光客数		①231,000人 ②216,000人 ③491,000人
2028	①2市村宿泊者数 ②橿原市宿泊者数 ③主要施設（7箇所）の観光客数		①239,000人 ②222,000人 ③496,000人
2029	①2市村宿泊者数 ②橿原市宿泊者数 ③主要施設（7箇所）の観光客数		①247,000人 ②228,000人 ③501,000人
事業費		2024年度：①未定 ②1,800,000円 ③8,090,117円	

	2025 年度：①未定 ②1,800,000 円 ③未定 2026 年度：①未定 ②1,800,000 円 ③未定
継続に向けた 事業設計	誘客に向けて、現地及び首都圏や東海圏で、講演会や展示会等で PR 事業を行う。大阪・関西万博や世界遺産登録などの機会を捉えた PR を検討する。
事業費	2027 年度：①未定 ②未定 ③未定 2028 年度：①未定 ②未定 ③未定 2029 年度：①未定 ②未定 ③未定
継続に向けた 事業設計	誘客に向けて、現地及び首都圏や東海圏で、講演会や展示会等で PR 事業を継続するとともに、効果的な PR を検討していく。

(7) - 6 普及啓発			
(事業番号 6 - A)			
事業名		学校教育における普及啓発事業	
概要		学校との連携による日本遺産の普及啓発活動を行う。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	小中高啓発事業	小学校、中学校、高校と連携し、歴史教育や郷土学習・総合学習で、日本遺産「日本国創成のとき～飛鳥を翔た女性たち～」のストーリーの活用や伎楽を用いた学習を実施し、啓発活動を行う。職員の派遣や、ボランティア活動等でも連携を図る。 また、講義等を企画し、日本遺産を宣伝する「伝え方講座」を実施し、こどもたちに日本遺産を伝え、子どもたちが来訪者へ啓発することに繋げる。	橿原市、高取町、明日香村
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	①(小学校 6 年生の年間総合学習時間 70 時間のうち、歴史学習に充てた時間)		①10 時間
2022			①27 時間
2023			①27 時間
2024	講座等開催回数		10 回
2025	講座等開催回数		11 回
2026	講座等開催回数		12 回
2027	講座等開催回数		13 回
2028	講座等開催回数		14 回
2029	講座等開催回数		15 回
事業費		2024 年度: 120,000 円 2025 年度: 120,000 円 2026 年度: 120,000 円	
継続に向けた事業設計		学校との連携による日本遺産の普及啓発活動を行う。	
事業費		2027 年度: 未定円 2028 年度: 未定円 2029 年度: 未定円	
継続に向けた事業設計		引き続き、学校と連携しながら、ワークショップ等を行い、日本遺産の魅力が伝わるよう普及啓発活動を行う。	

(事業番号 6-B)

事業名		大学・企業等の連携	
概要		大学や企業と連携し、講座や講演会等で普及啓発していく。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	大学・企業との連携	大学や企業と連携し、大学での講座の実施や、講演会の実施を行い、引き続き、日本遺産「日本国創成のとき～飛鳥を翔た女性たち～」の普及啓発に取り組む。	橿原市、高取町、明日香村
②	宿泊施設との連携	客室数の低水準が続く奈良県において、市内を中心に県内の高級ホテル等の旅館が続々と開業し、観光機運が高まっている。日本遺産を活用した体験プログラムやガイドを中心にホテルや旅館に在籍している観光コンシェルジュへの提案を図ることで、日本遺産を目的としたツアーを造成し、宿泊することで、滞在時間を延ばし、特別な体験やインタープリテーション型ガイドを求めるニーズへと訴求ができる。	明日香村商工会
③	地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」モデル観光地事業 「奈良南部・和歌山那智勝浦エリア」	観光庁が支援する「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくりモデル選定事業」に「奈良南部・和歌山那智勝浦エリア」として複数組織が連携し、選定を受けた。 地方への誘客に必要な課題や取組をウリ（体験コンテンツ）・ヤド（宿泊施設）・ヒト（ガイド）・コネ（ネットワーク・情報発信）・アシ（交通）の観点から 5 年計画でマスタープランの作成・ディスティネーションブランディング・組織体制強化・プロモーション活動等、紀伊半島一丸となり、事業を推進する。 事業内の体験アクティビティやメディアの招聘・地域の魅力をプロモーションするためのコンセプトブック等、様々な取り組みで日本遺産「飛鳥」の構成文化財やストーリーを活用し、来訪する訪日外国人への魅力訴求・理解促進を図る。	奈良県ビジュアルビューロー 吉野ビジュアルビューロー 明日香村商工会 那智勝浦観光機構

④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	イベント件数	2 2 回	
2022		5 1 回	
2023		2 5 回	
2024	イベント件数	2 6 回	
2025	イベント件数	2 7 回	
2026	イベント件数	2 8 回	
2027	イベント件数	2 9 回	
2028	イベント件数	3 0 回	
2029	イベント件数	3 1 回	
事業費	2024 年度：3,000 千円 2025 年度：15,000 千円 2026 年度：15,000 千円		
継続に向けた 事業設計	大学や企業と連携し、講座や講演会等で多くの方々に普及啓発していく。		
事業費	2027 年度：未定 2028 年度：未定 2029 年度：未定		
継続に向けた 事業設計	引き続き、大学や企業と連携し、講座や講演会等で普及啓発していき、より多くの方々に知ってもらう。		

(7) - 7 情報編集・発信			
(事業番号7-A)			
事業名	日本遺産「飛鳥」web サイト運営事業		
概要	協議会では日本遺産「日本国創成のとき～飛鳥を翔た女性たち～」のweb サイトにて情報発信し、ストーリーの解説を行っている。多言語化（5カ国語）に対応し、飛鳥女史紀行読本もサイト上で公開している。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産「飛鳥」web サイト運営事業	多言語対応した動画ストーリーもYoutube で公開し、web サイトとリンクさせている。令和3年度はシステムバージョンアップと改修を実施し、引き続きweb サイトの活用を行うと共に、必要に応じてYoutube 上に関連動画の追加公開を検討する。	日本遺産「飛鳥」魅力発信事業推進協議会
②			
③			
④			
年度	事業評価指標	実績値・目標値	
2021	チャンネル登録者数 (Youtube)	3,100人	

2022		4,090 人
2023		4,270 人
2024	チャンネル登録者数 (Youtube)	4,200 人
2025	チャンネル登録者数 (Youtube)	4,300 人
2026	チャンネル登録者数 (Youtube)	4,400 人
2027	チャンネル登録者数 (Youtube)	4,500 人
2028	チャンネル登録者数 (Youtube)	4,600 人
2029	チャンネル登録者数 (Youtube)	4,700 人
事業費	2024 年度 : 0 円 2025 年度 : 0 円 2026 年度 : 0 円	
継続に向けた事業設計	多言語対応した動画ストーリーを Youtube で公開、web サイトの活用を行っていく。	
事業費	2027 年度 : 0 円 2028 年度 : 0 円 2029 年度 : 0 円	
継続に向けた事業設計	引き続き、多言語対応した動画ストーリーを Youtube で公開、web サイトの活用を行っていき、登録者数の向上を目指していく。	

(事業番号 7 - B)

事業名	SNS による情報発信事業		
概要	協議会にて Facebook と X で情報発信を行う。新たにInstagramの開設を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	SNS による情報発信事業	イベントや関連情報について発信し、日本遺産及び飛鳥ファンの拡大を目差す。	日本遺産「飛鳥」魅力発信事業推進協議会
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	X フォロワー数		実績値 500 人
2022			実績値 587 人
2023			実績値 592 人
2024	X フォロワー数、Instagram フォロワー数		目標値 600 人
2025	X フォロワー数、Instagram フォロワー数		目標値 650 人
2026	X フォロワー数、Instagram フォロワー数		目標値 700 人
2027	X フォロワー数、Instagram フォロワー数		目標値 750 人
2028	X フォロワー数、Instagram フォロワー数		目標値 800 人
2029	X フォロワー数、Instagram フォロワー数		目標値 850 人
事業費	2024 年度 : 0 円 2025 年度 : 0 円 2026 年度 : 0 円		

継続に向けた 事業設計	Instagramを始めることにより、新たな年齢層に日本遺産の周知ができるようにする。イベントや、市町村でのイベント・講演会などを積極的に投稿し、周知をはかる。
事業費	2027 年度 : 0 円 2028 年度 : 0 円 2029 年度 : 0 円
継続に向けた 事業設計	引き続き、日本遺産のイベントや、市町村でのイベント・講演会などを積極的に投稿し、周知をはかり、投稿数を増やして、フォロワー数の増加を図る。